

企画事業「次代を担うリーダーを育成する事業」
「2009富士山国際エコキャンプ村」
～国際ワークキャンプ～

平成21年8月16日(日)～8月22日(土)
(6泊7日)



I 事業の背景

「環境」をキーワードとする新たな青年の社会体験活動と新しい青少年教育施設のあり方を社会に提案し、青年の自主性や参画力の向上を図り、次世代リーダーの育成をめざす。

II 事業の概要

1 趣 旨

富士山の環境保全や環境問題解決のための行動を、地元の協力者の支援を受けながら取り組むことで、青年の参画力やネットワーク力を高め、社会のさまざまな課題に対して地域でアクションを起こすことのできる次代を担う青年リーダーを育成する。

2 特 色

富士山国際エコキャンプ村では、NPO法人「NICE」との連携により、世界106カ国にボランティア募集を行うと同時に、国内においても全国的に募集、7日間にわたる国際ワークキャンプを「NO!ごみ」「農業」「森林」「福祉」をテーマにしたボランティア活動を行う。

宿泊は施設内にあるボランティアハウス“和”を使用し、文化の違う青年達の共同自炊生活により、相互のコミュニケーションの大切さやグループ形成のプロセスを体験する中で人間性を高め、社会的自立を促進するプログラムを展開する。

2 参加対象

15歳以上から35歳までの青年50名・外国人学生ボランティア10名

3 参加状況

131名(外国人学生ボランティア9名含む)

- ◆国別：日本122名、韓国1名、ポーランド1名
ドイツ1名、ロシア2名、台湾1名、香港1名
カナダ1名、ペルー1名
- ◆性別：男性39名 女性92名
- ◆年代別：10代 61名 20代 70名
- ◆参加者の大学：愛知淑徳大学・静岡県立大学・
龍谷大学・静岡大学・名古屋工業大学・立教大
学・神奈川大学・南山大学・武蔵野大学・早稲
田大学・金城学院大学・横浜市立大・九州大学・
富山大学・フェリス女学院大学・高知大学



【地域ボランティア活動で現場を感じる】

<参加者の感想等>

- ・地域でのボランティア活動のなかで、自分自身の将来を考えるきっかけになった。
- ・何よりも自分自身のなかですべての価値観が揺さぶられる感じがした。いままで見えなかったことが見えてきた。学ぶことをここまで感じたことはない。

4 企画のポイント

富士山国際エコキャンプ村へリーダーズ会議へのメンバー（以下エコキャンリーダー）が絶えず目標意識とモチベーションを維持し、参加者をケアできるように日々、担当職員とのミーティングを行う。

また、エコキャンリーダーばかりでなく参加者にも参画を促しプログラムの主体者としての意識を持つように配慮した。



【富士山スカイライン沿いの清掃活動】

Ⅲ 成果と課題

1 成果

本事業はエコキャンリーダーが、中心となって実施した。若者の参画を基本にしているため、プログラムに若者の視点からの工夫が随所にみられた。また、与えられたプログラムをこなすのではなく、常に主体性と自主性が要求されたことが参加者の大きな成長につながった。

事業を継続するなかで、海外を含め、全国から139名の学生が参加した。ここをきっかけに各地域で新たにボランティア活動をスタートさせるきっかけづくりとして大きな成果をあげている。

2 今後の課題

「富士山国際エコキャンプ村」が地域に浸透し、地域の方々の評価と体験内容の質が大きく

上がってきている。何よりも「助かった」という地域の声を原点に、これからも地域と青年のコラボレーションを継続させる必要がある。また、絶えず生き生きと参画するための工夫、そして運営者側のリーダーとしてのトレーニングも今後の課題である。



【森林での枝打ちボランティア】

3 今後に向けて

青年の参画力をキーワードに事業を継続してきた「富士山国際エコキャンプ村」は、平成17年度より「国際ワークキャンプ」のプログラムを導入し、事業運営のスタイルを確立してきた。また、本事業と「全国ワークキャンプフォーラム」がリンクすることで、事業成果の普及や参加者同士の連携が生まれ、活性化につながった。さらに、「富士山全ルートNO!ごみプロジェクト」と連携させ、清掃活動の波を全国に起こさせることができたと思う。



【139名のボランティアがひとつの輪に】

担当：企画指導専門職 北見 靖直